

○報告書インスタンス作成ガイドライン 新旧対照表

新	旧																						
<p>はじめに</p> <p>(略)</p> <p>➡ 参考書類について</p> <p>本書の主な参考書類は、次の図表のとおりです。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>資料名</th> <th>概要</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>タクソノミ要素リスト</td> <td>EDINETタクソノミ(財務諸表本表タクソノミ及び国際会計基準タクソノミを除く。)に定義された要素一覧です。</td> </tr> <tr> <td>勘定科目リスト</td> <td>財務諸表本表タクソノミ(日本基準)に定義された勘定科目の一覧です。</td> </tr> <tr> <td>国際会計基準要素リスト</td> <td>国際会計基準タクソノミに定義された勘定科目の一覧です。</td> </tr> <tr> <td>報告項目及び勘定科目の取扱いに関するガイドライン</td> <td>報告項目及び勘定科目の取扱いについてのガイドラインです。</td> </tr> <tr> <td>(略)</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>(略)</p> <p>➡ 各種ガイドラインについて</p> <p>EDINET で提供される XBRL の関連資料の体系は、次の図表のとおりです。</p>	資料名	概要	タクソノミ要素リスト	EDINETタクソノミ(財務諸表本表タクソノミ及び国際会計基準タクソノミを除く。)に定義された要素一覧です。	勘定科目リスト	財務諸表本表タクソノミ(日本基準)に定義された勘定科目の一覧です。	国際会計基準要素リスト	国際会計基準タクソノミに定義された勘定科目の一覧です。	報告項目及び勘定科目の取扱いに関するガイドライン	報告項目及び勘定科目の取扱いについてのガイドラインです。	(略)		<p>はじめに</p> <p>(略)</p> <p>➡ 参考書類について</p> <p>本書の主な参考書類は、次の図表のとおりです。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>資料名</th> <th>概要</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>タクソノミ要素リスト</td> <td>EDINETタクソノミに定義された要素一覧です(ただし、財務諸表本表要素は除く。)</td> </tr> <tr> <td>勘定科目リスト</td> <td>財務諸表本表タクソノミに定義された勘定科目の一覧です。 (追加)</td> </tr> <tr> <td>報告項目及び勘定科目の取扱いに関するガイドライン</td> <td>報告項目及び勘定科目の取扱いについてのガイドラインです。</td> </tr> <tr> <td>(略)</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>(略)</p> <p>➡ 各種ガイドラインについて</p> <p>EDINET で提供される XBRL の関連資料の体系は、次の図表のとおりです。</p>	資料名	概要	タクソノミ要素リスト	EDINETタクソノミに定義された要素一覧です(ただし、財務諸表本表要素は除く。)	勘定科目リスト	財務諸表本表タクソノミに定義された勘定科目の一覧です。 (追加)	報告項目及び勘定科目の取扱いに関するガイドライン	報告項目及び勘定科目の取扱いについてのガイドラインです。	(略)	
資料名	概要																						
タクソノミ要素リスト	EDINETタクソノミ(財務諸表本表タクソノミ及び国際会計基準タクソノミを除く。)に定義された要素一覧です。																						
勘定科目リスト	財務諸表本表タクソノミ(日本基準)に定義された勘定科目の一覧です。																						
国際会計基準要素リスト	国際会計基準タクソノミに定義された勘定科目の一覧です。																						
報告項目及び勘定科目の取扱いに関するガイドライン	報告項目及び勘定科目の取扱いについてのガイドラインです。																						
(略)																							
資料名	概要																						
タクソノミ要素リスト	EDINETタクソノミに定義された要素一覧です(ただし、財務諸表本表要素は除く。)																						
勘定科目リスト	財務諸表本表タクソノミに定義された勘定科目の一覧です。 (追加)																						
報告項目及び勘定科目の取扱いに関するガイドライン	報告項目及び勘定科目の取扱いについてのガイドラインです。																						
(略)																							

新	旧
<p data-bbox="210 283 1062 346">1-2 報告書インスタンスの作成単位</p> <hr data-bbox="210 352 1430 361"/> <p data-bbox="210 399 276 430">(略)</p> <p data-bbox="261 472 1409 541">なお、シリーズファンドのように一つの開示書類で、複数の財務諸表を XBRL 形式で提出する必要があるファンドの場合は、複数の報告書インスタンスを作成します。</p> <p data-bbox="210 619 276 651">(略)</p>	<p data-bbox="1463 283 2315 346">1-2 報告書インスタンスの作成単位</p> <hr data-bbox="1463 352 2683 361"/> <p data-bbox="1463 399 1528 430">(略)</p> <p data-bbox="1513 472 2662 577">なお、シリーズファンドのように一つの開示書類で、複数の財務諸表を XBRL 形式で提出する必要があるファンドの場合、<u>又は IFRS タクソノミを利用する場合は</u>、複数の報告書インスタンスを作成します。</p> <p data-bbox="1463 619 1528 651">(略)</p>

新

1-3 XBRL 対象様式

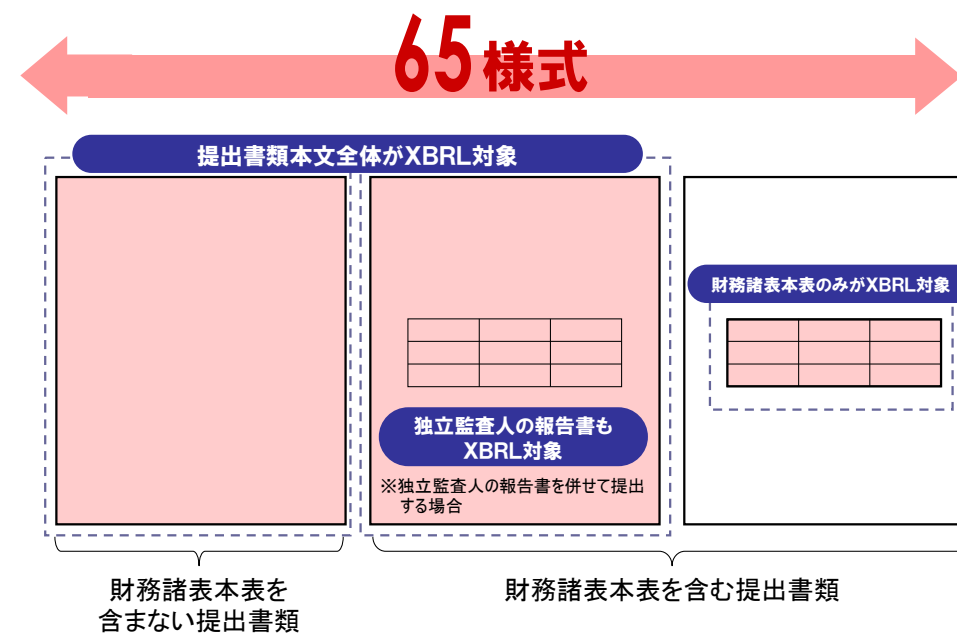
EDINET 提出書類の XBRL 対象範囲については、『EDINET タクソノミの概要説明』の「2-1 XBRL 対象範囲」を参照してください。

旧

1-3 XBRL 対象様式

XBRL の対象とする様式は、65 様式で、次の図表にあるように、提出書類本文全体及び独立監査人の報告書が XBRL 対象範囲である様式と、財務諸表本表のみが XBRL 範囲である様式とがあります。

図表 1-3-1 XBRL 対象範囲のパターン



XBRL の対象となる書類と関連する府令、規則等は、『提出者別タクソノミ作成ガイドライン』を参照してください。また、財務諸表本表を含む提出書類本文全体が XBRL の対象の場合、独立監査人の報告書全体も XBRL の対象となります。

新

旧

4-3 利用可能な文字コードと文字


報告書インスタンスで使用する文字コード（エンコーディング形式）は、「UTF-8」です。報告書インスタンスでは、文字コードを UTF-8 に指定する際に BOM(Byte Order Mark)を付与することを原則とします。BOM を付与していない場合、ブラウザで文字化けを起こす可能性があります。

提出書類作成時に使用できる文字コードについては、『提出書類ファイル仕様書』の「4-1 文字コードセット」を参照してください。

4-3 利用可能な文字コードと文字

報告書インスタンスで使用する文字コード（エンコーディング形式）は、「UTF-8」です。報告書インスタンスでは、文字コードを UTF-8 に指定する際に BOM(Byte Order Mark)を付与することを原則とします。BOM を付与していない場合、ブラウザで文字化けを起こす可能性があります。

また、提出書類作成時に使用できる文字コードは、次の分類に含まれる文字です。

 『提出書類ファイル仕様書』

- a. 半角文字（英数字及び記号）
※JIS X 0201-1997、半角片仮名を除く。
- b. JIS X 0208-1997 非漢字セット（全角）
- c. NEC 特殊文字
- d. JIS 第一水準漢字 ※JIS X 0208-1997
- e. JIS 第二水準漢字 ※JIS X 0208-1997
- f. NEC 選定 IBM 拡張文字
- g. IBM 拡張文字

上記の文字コードセット一覧に含まれない文字は、Unicodeによる数値文字参照を使用することができます。『提出書類ファイル仕様書』に記載されている文字コードセット一覧に含まれる文字は、Unicodeによる数値文字参照を使用せず、そのまま使用してください。なお、Unicodeによる数値文字参照で記載した場合、EDINETでPDFファイルを自動作成する際に、文字化けを起こす可能性があります。

新

旧

5-2 名前空間プレフィックスと名前空間 URI

報告書インスタンスでは、タグ付けに利用している語彙スキーマ、インライン XBRL で利用する名前空間プレフィックスと名前空間 URI を「<html>タグ」に設定します。
 設定する名前空間プレフィックス及び名前空間 URI は、次の図表を参照してください。
 なお、報告書インスタンス内で不要な名前空間は設定しません。

図表 5-2-1 報告書インスタンスに設定する名前空間プレフィックス及び名前空間 URI の例

No	名前空間プレフィックス	名前空間URI	備考
(略)			
12	jppfs_cor	http://disclosure.edinet-fsa.go.jp/taxonomy/jppfs/{タクソノミ日付}/jppfs_cor	財務諸表本表タクソノミの語彙スキーマの名前空間宣言
13	jpigp_cor	http://disclosure.edinet-fsa.go.jp/taxonomy/jpigp/{タクソノミ日付}/jpigp_cor	国際会計基準タクソノミの語彙スキーマの名前空間宣言
14	jpdei_cor	http://disclosure.edinet-fsa.go.jp/taxonomy/jpdei/{タクソノミ日付}/jpdei_cor	DEI語彙スキーマの名前空間宣言
(略)			

5-2 名前空間プレフィックスと名前空間 URI

報告書インスタンスでは、タグ付けに利用している語彙スキーマ、インライン XBRL で利用する名前空間プレフィックスと名前空間 URI を「<html>タグ」に設定します。
 設定する名前空間プレフィックス及び名前空間 URI は、次の図表を参照してください。
 なお、報告書インスタンス内で不要な名前空間は設定しません。

図表 5-2-1 報告書インスタンスに設定する名前空間プレフィックス及び名前空間 URI の例

No	名前空間プレフィックス	名前空間URI	備考
(略)			
12	jppfs_cor	http://disclosure.edinet-fsa.go.jp/taxonomy/jppfs/{タクソノミ日付}/jppfs_cor	財務諸表本表語彙スキーマの名前空間宣言
(追加)			
13	jpdei_cor	http://disclosure.edinet-fsa.go.jp/taxonomy/jpdei/{タクソノミ日付}/jpdei_cor	DEI語彙スキーマの名前空間宣言
(略)			

新

5-4-1 コンテキスト ID の命名規約

(略)

図表 5-4-2 コンテキスト ID の命名規約

コンテキストIDの命名規約

{相対期間又は時点} {期間又は時点} ({メンバーの要素名}) × n ({連番3桁})

※各項目の詳細は「図表 5-4-4 コンテキスト ID の設定」を参照してください。
 ※ディメンションを使用する場合、タグ付けする値に関連するメンバーの数だけコンテキストを定義する必要があります。命名規約の「n」は関連するメンバーの数を表す整数です。
 ※「{連番3桁}」は、コンテキスト ID が重複した場合に二つ目からは「002」から開始する連番を付与します。
 ※連番軸以外で開示書類等提出者が追加したメンバーを使用する場合は、「{メンバーの要素名}」を「{名前空間プレフィックス}{メンバーの要素名}」に置き換えます。

(略)

図表 5-4-4 コンテキスト ID の設定

No	項目	値	説明
1	{相対期間又は時点}	CurrentYear	当年度を意味します。
2		Interim	中間期を意味します。
3		Prior1Year	前年度を意味します。
4		Prior1Interim	前中間期を意味します。
5		Prior2Year	前々年度を意味します。
6		Prior2Interim	前々中間期を意味します。
7		Prior{n}Year	{n}年度前を意味します。
8		Prior{n}Interim	{n}年度前中間期を意味します。
9		CurrentYTD	当四半期累計期間を意味します。
10		CurrentQuarter	当四半期会計期間を意味します。
11		Prior{n}YTD	{n}年度前同四半期累計期間を意味します。
12		Prior{n}Quarter	{n}年度前同四半期会計期間を意味します。
13		FilingDate	提出日を意味します。
(削除)			
14	RecordDate	議決権行使の基準日を意味します。*	
15	RecentDate	最近日を意味します。*	

(略)

※ただし、議決権行使の基準日又は最近日が会計期間末と同じ日付の場合、会計期間末日のコンテキスト ID を利用し、議決権行使の基準日のコンテキスト ID は定義できません。最近日を複数使用する場合、二つ目以降は連番を振ります(例: RecentDate2)。

旧

5-4-1 コンテキスト ID の命名規約

(略)

図表 5-4-2 コンテキスト ID の命名規約

コンテキストIDの命名規約

{相対期間又は時点} {期間又は時点} ({メンバーの要素名}) × n ({連番3桁})

※各項目の詳細は「図表 5-4-4 コンテキスト ID の設定」を参照してください。
 ※ディメンションを使用する場合、タグ付けする値に関連するメンバーの数だけコンテキストを定義する必要があります。命名規約の「n」は関連するメンバーの数を表す整数です。
 ※「{連番3桁}」は、コンテキスト ID が重複した場合に二つ目からは「002」から開始する連番を付与します。
 ※開示書類等提出者が追加したメンバーを使用する場合は、「{メンバーの要素名}」を「{名前空間プレフィックス}{メンバーの要素名}」に置き換えます。

(略)

図表 5-4-4 コンテキスト ID の設定

No	項目	値	説明
1	{相対期間又は時点}	CurrentYear	当年度を意味します。
2		Interim	中間期を意味します。
3		Prior1Year	前年度を意味します。
4		Prior1Interim	前中間期を意味します。
5		Prior2Year	前々年度を意味します。
6		Prior2Interim	前々中間期を意味します。
7		Prior{n}Year	{n}年度前を意味します。
8		Prior{n}Interim	{n}年度前中間期を意味します。
9		CurrentYTD	当四半期累計期間を意味します。
10		CurrentQuarter	当四半期会計期間を意味します。
11		Prior{n}YTD	{n}年度前同四半期累計期間を意味します。
12		Prior{n}Quarter	{n}年度前同四半期会計期間を意味します。
13		FilingDate	提出日を意味します。
14	DateOfEvent	基準日を意味します。*	

(追加)

(略)

※ただし、基準日が会計期間末と同じ日付の場合、会計期間末日のコンテキスト ID を利用し、基準日のコンテキスト ID は定義できません。

新

旧

5-4-2 コンテキスト ID の選択

コンテキスト ID の選択は、タグ付け対象となる値がどの期間又は時点のものであるかを基
礎に判断します。しかし、タグ付けの簡便性を重視し画一的なコンテキスト選択とするケー
スもあります。有価証券報告書等におけるコンテキスト選択は次の図表のルールとします。

図表 5-4-5 コンテキストの選択

対象	コンテキストIDの選択		備考	
	連結又は個別の別 ○:あり ×:なし	期間又は時点		
様式	経理の状況以外	×	提出日	
ツリー	経理の状況	×	会計期間	
詳細	主要な経営指標等の推移	○	会計期間末/会計期間	
ツリー	従業員の状況	○	会計期間末	注1
	研究開発活動	×	会計期間	
	設備投資等の概要	×	会計期間	
	発行済株式、株式の総数等	×	提出日	
	所有者別状況	×	会計期間末	注1
	大株主の状況	×	会計期間末	注1
	発行済株式、議決権の状況	×	会計期間末	注1
	自己株式等	×	会計期間末	注1
	配当政策	×	会計期間	
	役員の状況	×	提出日	
	コーポレート・ガバナンスの状況 (体制の記載)	×	提出日	
	コーポレート・ガバナンスの状況 (役員の報酬等)	×	会計期間	
	コーポレート・ガバナンスの状況 (株式の保有状況)	×	会計期間末/会計期間	
	監査公認会計士等に対する報酬 の内容	×	会計期間	
	経理の状況	○	会計期間末/会計期間	
	独立監査人の報告書	×	提出日	

注1:有価証券届出書においては最近日コンテキストを用いる。ただし、最近日が会計期間末コンテキストとして別途設定されている
コンテキストの期間末日と一致する場合は、当該会計期間末コンテキストを用いることに注意。

コンテキストの選び方

コンテキストの選び方について、有価証券報告書を例に説明します。

(追加)

新

→ 経理の状況中の様式ツリーのコンテキスト

様式ツリーに定義された要素で経理の状況中のタグ付けする場合、タグ付け対象には比較対象期間の情報も含むこととなりますが、簡便性を重視し当会計期間 (CurrentYear) のコンテキスト ID を用います。

※当会計期間(CurrentYear)は、有価証券届出書で次の事業年度の四半期又は中間期の財務諸表を記載する場合は、Prior1Year となることに注意してください。

※四半期又は中間期のコンテキスト ID は、次のように用いることに注意してください。

・四半期累計期間に係る記載 : 当四半期累計期間のコンテキスト ID

・四半期会計期間に係る記載 : 当四半期会計期間のコンテキスト ID

・中間期に係る記載 : 中間期のコンテキスト ID

※【最近の財務諸表】について記載する場合は、提出日 (FilingDate) のコンテキスト ID でタグ付けします。

→ 様式ツリーのコンテキストと詳細ツリーのコンテキスト

様式ツリーのタグ付けに用いるコンテキスト ID は、簡便性を重視した画一的な選択としているため、関連する詳細ツリーのタグ付けに用いるコンテキスト ID とは、必ずしも一致しないことに注意してください。例えば、様式ツリーの「連結経営指標等」の包括タグは、提出日 (FilingDate) のコンテキスト ID でタグ付けしますが、「連結経営指標等」の詳細ツリーの要素は、会計期間末又は会計期間のコンテキスト ID でタグ付けします。

(削除)

(様式ツリー及び詳細ツリーにおけるコンテキスト ID の選択については、「図表 5-4-5 コンテキストの選択」に記載あり)

→ 「期間又は時点」の選択指針

(略)

旧

→ 「相対期間又は時点」の選択指針

様式ツリーに定義された要素でタグ付けする場合は、簡便性を重視し次の画一的なコンテキスト ID を用います。

【経理の状況】中の記載 : 当会計期間(CurrentYear)

【経理の状況】以外の記載 : 提出日 (FilingDate)

※「当会計期間(CurrentYear)は、有価証券届出書で次の事業年度の四半期又は中間期の財務諸表を記載する場合は、Prior1Year となることに注意してください。

※【経理の状況】中のコンテキスト ID は、次のように用いることに注意してください。

・四半期累計期間に係る記載 : 当四半期累計期間のコンテキスト ID

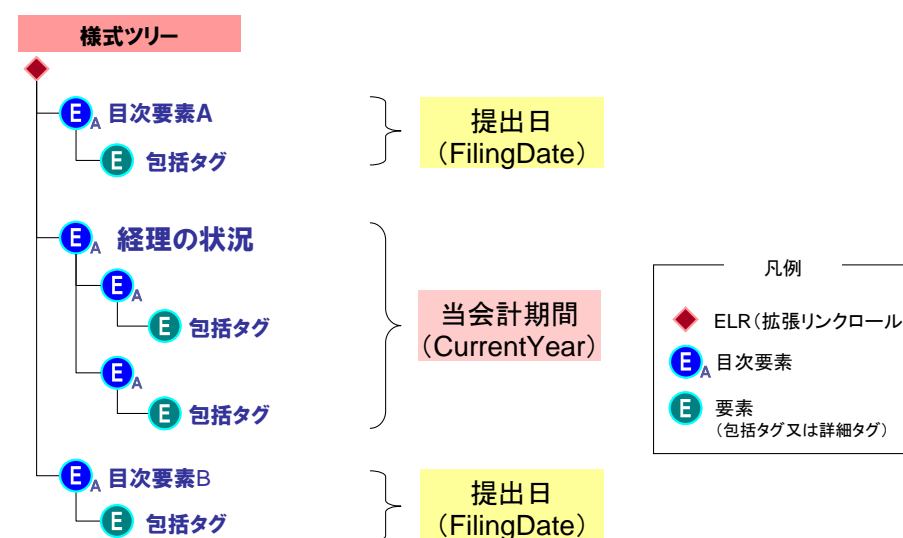
・四半期会計期間に係る記載 : 当四半期会計期間のコンテキスト ID

・中間期に係る記載 : 中間期のコンテキスト ID

※【経理の状況】中に、該当する事項がない場合又は【最近の財務諸表】について記載する場合は、提出日 (FilingDate) のコンテキスト ID でタグ付けします。

※様式ツリーの要素が詳細ツリーと関連している場合、関連する詳細ツリーの要素でタグ付けするコンテキスト ID は、必ずしも様式ツリーの要素でタグ付けするコンテキスト ID と一致しないことに注意してください。例えば、様式ツリーの「連結経営指標等」の包括タグは、提出日 (FilingDate) のコンテキスト ID でタグ付けしますが、「連結経営指標等」の詳細ツリーの要素は、会計期間又は会計期間期末のコンテキスト ID でタグ付けします。

図表 5-4-5 様式ツリーに定義された要素でタグ付けする場合



詳細ツリーに定義された要素でタグ付けする場合は、利用するコンテキストを個々に判断する必要があります。詳しくは『提出者別タクソノミ作成ガイドライン』を参照してください。

→ 「期間又は時点」の選択指針

(略)

新	旧
<p>5-4-5-1 連結又は個別を表すシナリオ要素の設定</p> <hr/> <p>連結財務諸表を表す場合は、シナリオ要素に「ConsolidatedMember」を設定しません。 個別財務諸表を表す場合は、シナリオ要素に「NonConsolidatedMember」を設定します。詳細は、次の「5-4-6 コンテキストの設定例」を参照してください。</p> <p><u>なお、個別財務諸表の数値を記載する場合でも、提出者別タクソノミにおいて連結又は個別のディメンションを設定しない箇所においては、シナリオ要素に「NonConsolidatedMember」を設定しません(「図表 5-4-5 コンテキストの選択」を参照。)。例えば、非連結の会社の有価証券報告書の場合、財務諸表本表では「NonConsolidatedMember」を設定したコンテキストを利用する一方、【研究開発費】や【設備投資等の状況】においては「NonConsolidatedMember」を設定していないコンテキストを利用することに注意してください。</u></p>	<p>5-4-4-1 連結又は個別を表すシナリオ要素の設定</p> <hr/> <p>連結財務諸表を表す場合は、シナリオ要素に「ConsolidatedMember」を設定しません。 個別財務諸表を表す場合は、シナリオ要素に「NonConsolidatedMember」を設定します。詳細は、次の「5-4-5 コンテキストの設定例」を参照してください。</p>

新

5-6-3-5 該当なしタグ

提出書類の目次の中でその目次の記載項目に該当がないため、該当事項がない旨を記載することがあります。この場合、EDINET タクソノミで該当なし要素が用意されていれば、当該要素を用いてタグ付けします。詳細は、『報告項目及び勘定科目の取扱いに関するガイドライン』の「4 該当なし要素」を参照してください。

(削除)

旧

5-6-3-5 該当なしタグ

提出書類の目次の中でその目次の記載項目に該当がないため、次の図表のように該当事項がない旨を記載することがあります。この場合、該当なし要素を用いてタグ付けします。詳細は、『提出者別タクソノミ作成ガイドライン』を参照してください。

図表 5-6-23 該当なしのイメージ

【報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報】
前連結会計年度(自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)
該当事項はありません。

↑
タグ付けの範囲

新

5-6-5 注記番号(フットノートリンク)の設定

報告書インスタンス中で注記番号を表現する場合、フットノートリンクを設定します。フットノートリンクで設定する内容は、次の図表のとおりです。なお、フットノートリンクは日本基準の財務諸表本表の値に対してのみ使用します。

(略)

旧

5-6-5 注記番号(フットノートリンク)の設定

報告書インスタンス中で注記番号を表現する場合、フットノートリンクを設定します。フットノートリンクで設定する内容は、次の図表のとおりです。なお、フットノートリンクは財務諸表本表の値に対してのみ使用します。

(略)

新	旧
<p data-bbox="210 289 1032 352">7-7 詳細タグ付けの範囲及び方針</p> <hr data-bbox="210 357 1463 361"/> <p data-bbox="261 401 1412 470">詳細タグ付けの範囲及び方針については、『EDINET タクソミの概要説明』の「<u>2-5 詳細タグ付けの範囲及び方針</u>」を参照してください。</p>	<p data-bbox="1463 289 2285 352">7-7 詳細タグ付けの範囲及び方針</p> <hr data-bbox="1463 357 2715 361"/> <p data-bbox="1510 401 2662 470">詳細タグ付けの範囲及び方針については、『<u>提出者別タクソミ作成ガイドライン</u>』を参照してください。</p>

新	旧
<p data-bbox="210 289 964 346">7-8 訂正報告時の提出ファイル</p> <hr data-bbox="210 352 1430 357"/> <p data-bbox="261 401 1409 468">訂正報告時に作成する提出ファイルの留意点は、『<u>EDINET タクソミの概要説明</u>』の「<u>2-1-5 訂正報告時の提出ファイル</u>」を参照してください。</p>	<p data-bbox="1463 289 2217 346">7-8 訂正報告時の提出ファイル</p> <hr data-bbox="1463 352 2683 357"/> <p data-bbox="1513 401 2662 468">訂正報告時に作成する提出ファイルの留意点は、『<u>提出者別タクソミ作成ガイドライン</u>』を参照してください。</p>